

掲示板

阿弥陀という
三字をば
おさめたすけ
すくうと
読めるいわれあり

吉良町正向寺掲示板より



赤羽別院報 第5号

発行所
真宗大谷派 赤羽別院 親寛寺
発行人 野々山洪美
愛知県幡豆郡一色町赤羽上郷中14
Tel.Fax.(0563)72-2308
印刷/懶教育広報センター

シリーズ

人間模様

⑤

一色町 杉本ちよ子さん

幼少の頃に仏法に出会い、趣味の俳句とともに求めてやまない生き様の中には、いつもお母さんの存在があった。「亡き母のごとばは私の宝物です」とおっしゃる杉本さん。ノートに書き綴られたごとの「一つひとつを、確かめるように何度も口に出された。

杉本 私のお母、特に母は熱心な仏法者で、東別院へもよくお参りしました。会えばいつも仏法を聞かせてくれましたし、電話や手紙でも必ずひと言添えてくれました。

—お母さんの導きは大きいようですね。

杉本 母がとても大切にしていたことばに「一心専念/弥陀名号/行住座臥/不問時節久近/念念不捨者/是名正定之業/順彼佛願故」があるんです。確か二十年程前に夏期講習で藤原幸章先生がこの一文をわかりやすく話して下さい、とても感銘を受けたのを覚えています。それ



から私も『唯信鈔』を書き留めて、繰り返し読むようになったんです。母のおかげですね。このノートは宝物ですよ。その母も八十八才で亡くなりましたが、—仏法にふれて何が感じられることは。

杉本 昔は法事の際のお経が長く、苦痛に感じたものでしたが、四十八願のいわれを聞いてからは全く思わんようになりました。それと仏法にわが身が照らされるとお聞かせ頂きましたが、都合の悪いことは隠して、見ないようにしてしまわうんですね。この一点が超えられたらと思うのですが。

—法座に出掛けたり、句集を作成されたりとお忙しいですね。

杉本 法友といっしょに聴聞し、俳句仲間と語らうことはとても楽しいですね。

息子が亡くなってひとり暮らしですので、自由気ままなようですが、不自由もあるんです。でも小言は言えません。「あるがまま、そのまま」を喜びたいです。

人間、いつどうなるのかわか

りませんし、うかうかしておれんですよ。早く辞世の句を作らねばと思っています。(笑)

—生き方についてはどう思われますか。

杉本 今は世の中が、時代が違いうでしよう。特に年寄りには住みにくい時代ですが、この歳まで生かされてもらって感謝しています。でも、すぐに娑婆の用事を優先してしまうので困ったものです。仏事を「片付け仕事」にしてしまわうんです。全く、お恥しい限りですよ。両親に恵ま

りませんし、うかうかしておれんですよ。早く辞世の句を作らねばと思っています。(笑)

—生き方についてはどう思われますか。

杉本 今は世の中が、時代が違いうでしよう。特に年寄りには住みにくい時代ですが、この歳まで生かされてもらって感謝しています。でも、すぐに娑婆の用事を優先してしまうので困ったものです。仏事を「片付け仕事」にしてしまわうんです。全く、お恥しい限りですよ。両親に恵ま

蓮如絵伝を読む (5) 嫁威し肉付き面

蓮如上人の吉崎でのご教化のうち、「嫁威し肉付き面」の話は古くから多くの人たちによって語られている。

十楽村の与曾次とお清夫婦は、熱心に聴聞を続けていた。ところがこの家の姑は大の仏法嫌いで、何とか若い二人の吉崎参りを止めさせようと、ある夜鬼の面をつけてお清の帰る夜道待ち伏せた。

そうとは知らないお清は家路を急いでいた。その時、「ウア」と襲いかかると、お清は「喰まば喰め、くらわばくらえ金剛の、他力の信はよもや喰むまじ」と、震えながら逃げ去った。

家に着いてみると姑がいなくて、与曾次と共に先ほどの場所に行ってみると、うめき声が聞こえ、それはなんと姑の声だった。お清が「蓮如様は姿は鬼

れ仏縁あるこの家に嫁いできたのですから何とか恩に報いる生き方をしなくてはもったいないですね。ちよつと繰り返す言になりますが、きょう一日を、今のひと時を大切にしたいのです。いま在ることを喜び、母のように仏法を尊び、お念仏を忘れない生き方をしたいのです。

—これからも聞法に、俳句にご精進下さい。

杉本 人生に余生はありません。臨終の一念に至るまで、うかうかしておれませんよ。(H・M)



や蛇でもそのまま救って下さるのが本願じゃ。阿弥陀さまに任せの身、さあお念仏しましよ。」「ナムアミダブツ、ナムアミダブツ。」何と顔ににくい込んだ面はスルリと落ちた。

このことを蓮如様に申し上げると、「そのことだよ」と言われ、姑も念仏の輩となり、悪凡夫を仏にせずにおかない弥陀のご恩を共々に喜ぶ身になった。

赤色赤光

日毎に春の気配を感じる頃であるが、官僚汚職、ナイフ殺傷事件などで大揺れのこの冬は、風邪も大流行して体調を崩したりして重苦しい日々を過ごした人も多い▼そんな中で、長野冬季五輪での選手たちの集中力や、躍動感に共なる感動を味わうことがつかの間の安息でもあった▼さて、流行の「接待」とは元來参詣者修行者らを労い、もてなすことであり、見返りを求める行為ははず。それがいつしか「談合・ワイロ」というかたちで「利益供与」なる言葉を生み出していった。権威を誇示、振りかざすことで誰もがひれ伏すという相変わらずの構図が成立する背景はどこにあるのか▼「ムカつき、キレた」挙句の少年のナイフ。刃先はどこに向けられているのか。大人社会への抵抗を見るようであるが、複雑な思いがある▼宗門では蓮如上人五百回御遠忌法要に向け各事業が取り組まれているが、果たしてどこまで現代の課題を共有した教団になっているのか。いま、教団をして寺が問われている。(M)

平成10年度赤羽別院真言宗講座
講師 仏教談話会主宰 野田 風雪師
内容 歎異抄に学ぶ
会費 四千元(一年12回分)
初回 5月16日午後1時30分
以降 6月13日他月一回
申込 お手次ぎの寺か、当日受付にお申込み下さい

クローズアップ

蓮如忌

ウォッチング

ゴボちゃん

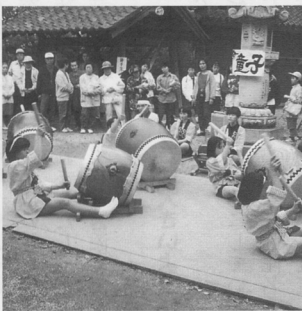


西尾から西端まで約7kmを歩いて行って、応仁寺で皆で力を合わせて勤める法会である。途中願随寺の蓮師会に参り、広藤園の藤を観て、五百五十年ほど前、蓮如さんがやってきた往時をしのびながらゆったりと歩く。

応仁寺に到着すると境内では、露店も並び、御文鑑定団や琴や尺八、

家族で参加できる法会

カルチャーウォーク蓮如みち



太鼓の演奏など楽しい催しがいっぱい待ち受けている。また蓮如上人絵伝の絵解きもあって、大人から子どもまで一緒に楽しむ

一色町味浜の養林寺では、毎年四月十八、十九日の二日間、伝統的な蓮如忌が勤まる。寺の縁起によれば、二二世正西は蓮如上人の直弟子であって、正西

一色養林寺蓮如忌

一色町味浜の養林寺では、毎年四月十八、十九日の二日間、伝統的な蓮如忌が勤まる。寺の縁起によれば、二二世正西は蓮如上人の直弟子であって、正西

上下四巻の蓮如上人御伝鈔が拝読され、沢山の参詣者で賑わったという。住職は「以前のよう



(H)



西尾市葵町の記念碑参拝もありません。

が上人のもとを去り、三河に帰るとき、上人を象った御木像をいただいたという。人々は「水鏡の御影」と呼んで尊んできた。蓮如忌の勤まる二日間だけ御厨子が開かれ、お勤めされる。前々住職の頃までは、「蓮如上人御正忌法要」と称して「蓮如さん」の名で親しまれてきた。

日時 平成十年六月五日(金)
御連枝参向 法話渡辺晃純師
会場 一色町赤羽 赤羽別院

「赤羽御坊」発行の協賛志を募集しています。

編集後記 西本願寺門主の御遠忌での第一声。総ての寺が総ての門徒に「寺便り」を届けてほしいと。それが御文の精神だと。同感。「赤羽御坊」も是非届いてほしい。

- 別院行事案内
 - ◆ 毎月13日・28日 晨朝法話
 - ◆ 4月7日ほか毎月一回 聖典学習会 櫻部 建師
 - ◆ 4月11日・12日 報徳会蓮師会 12日は献詠句会を開催します
 - ◆ 4月15日九年度真宗講座(終) 亀井 鑛師
 - ◆ 5月16日十年度真宗講座(始) 一面に案内 野田風雪師
 - ◆ 6月5日 殉教法要
 - ◆ 本年は別院にて厳修
 - ◆ 8月20日・21日 暁天講座
 - ◆ 9月20日・26日 秋季彼岸会
 - ◆ 11月14日・16日 報恩講
- 「赤羽御坊」協賛者芳名
 - ◆ 西尾市願正寺同行◆西尾市坂部津多子◆西尾市正念寺◆一色町良宣寺◆西尾市丸米食品◆西尾市光明寺◆西尾市山崎正広◆西尾市細池町浄徳寺◆西尾市了願寺◆西尾市随縁寺◆吉良町正向寺◆西尾市唯法寺以上今回ご寄付◆養林寺◆聖運寺◆隆勝寺◆浄覚寺◆牧野一夫◆浄徳寺同行中◆蓮成寺◆石川電業社◆深見脩◆信證寺◆徳行寺◆福正寺◆安楽寺◆鈴木きよ◆本龍寺

かつてこの地方の真宗門徒のどの家でも毎朝晩、お勤めの声が聞こえていた。それは、五百年の昔蓮如上人の時代から連綿として我が家に伝えられてきたものである。お勤めの後には御文さまを拝読し、そばに座るものは頭を少し下げて聞いてきた。蓮如上人の書かれた御文さまを目の前で蓮如上人が語ってお

られる言葉のように一言一言味わって聞いてきた。だから蓮如上人でなくて、親しみを込めて「蓮如さん」と呼んできた。蓮如上人の法要を蓮師会とか

「蓮如さん」が勤まる

の場でもあったのである。サーカスや馬の曲芸、そしてヤッコ凧といえば碧南西端の応仁寺の蓮如さん、芝居や演芸、そして金魚すくいといえれば一色大塚の

の中でひととき、一緒にあって興ずる安息日が「蓮如さん」でもあった。

法要のご案内
殉教記念法要「台嶺さん」
明治維新の大変革期に新政府から神仏判然令が出された。変動の激しい世に、古いものはすべて打ち壊せという革命的気運も手伝って、寺を潰し、仏像を壊す廃仏毀釈が各地に起こった。

三河では、大浜に陣屋を置く菊間藩から仏教排斥の政策が出された。これに石川台嶺ら三十余名の僧侶が抗し、数多くの門徒衆も呼応し談判に加わるが、藩吏一人が殺害される結果となり、台嶺他一名は斬罪、他の同志も刑に処せられた。この事件を境に廃仏の運動は鎮まった。台嶺らの護法精神と真宗の宗風を忘れることのないよう殉教の碑を建て、毎年、殉教記念法要が勤められる。今年も六月五日、赤羽別院を会場に、西三河南部一円の寺院・門徒が中心になり営まれる。